



持続可能な地方自治体

都市や自治体も「国連の10年オフィシャルコミュニティ」に応募することができます。国連の10年推進国内委員会は、持続可能な経済、地球温暖化防止、代替エネルギーの活用などにおいて、持続可能な開発のための教育に積極的に取り組む地方自治体を認定しています。これまでに、11の都市や自治体が国連の10年ロゴマークを授与されました。(アーレン、アルハイム、ボン、エアフルト、フランクフルト・アム・マイン、ゲルゼンキルヒェン、ハンブルグ、ヘレンタル、ハイデルベルグ、ミンデン、ノイマルクト・イン・デア・オーバープファルツ2010年5月現在)。



参加する

「国連の10年オフィシャルプロジェクト」、「国連の10年オフィシャルコミュニティ」へのご応募は、ベルリンにある国内委員会委員長オフィスをお願いします。

国連の10年推進国内委員会 委員長オフィス

ベルリン自由大学
住所: Arnimallee 9, 14195 Berlin
Tel.: +49-(0)30-838-55890
Fax: +49-(0)30-53023
E-Mail: arbeitsstelle@esd.unesco.de

国連の10年「持続可能な開発のための教育」(2005年~2014年)は国連で採択され、あらゆる教育分野に、持続可能な開発の理念が根付くことを目標に実施されています。ドイツにおける国連の10年に関連する活動は、ドイツユネスコ国内委員会がコーディネートしています。

ドイツユネスコ国内委員会

国連の10年「持続可能な開発のための教育」事務局
住所: Langwartweg 72, 53129 Bonn
Tel.: +49-(0)228-688444-0
Fax: +49-(0)228-688444-79
E-Mail: sekretariat@esd.unesco.de

オフィシャルプロジェクトをはじめ、ドイツにおける国連の10年の実施状況については、こちらのポータルサイトをご覧ください。

www.bne-portal.de/un-dekade

後援



グッドプラクティスのご応募をお待ちしております。
国連の10年
オフィシャルプロジェクト

国連の10年
「持続可能な開発のための教育」
(2005-2014)

発行: ドイツユネスコ国内委員会
編集: ファリッド・ガルディツイ、フライア・ケットナー
作成: 有限会社 メディア・カンパニー
写真: 表紙: WWF (A. モランヤ)、p.2: マイク・クリューガー、p.3: 教育・メディア研究所、ザールラント州映像資料館 (メヒティルト・シュナイダー)、p.4: ドイツ環境財団資料館、p.5: ノイマルクト・イン・デア・オーバープファルツ
© ドイツユネスコ国内委員会 2010

教育 | 科学 | 文化 | コミュニケーション

グッドプラクティス

ドイツユネスコ国内委員会は、国連の10年「持続可能な開発のための教育」を推進する国内委員会とともに、1000以上の国連の10年「持続可能な開発のための教育(2005-2014)」オフィシャルプロジェクトを認定しています。認定を受けたプロジェクトは、持続可能な社会を目指す考え方や、実践におけるグッドプラクティスです。

幼稚園、学校、大学、継続教育、校外学習施設など持続可能な開発のための教育は様々な場所で実践されています。持続可能なスクールカンパニーや、子供向けの文化・メディアプロジェクト、管理職者を対象とするトレーニングプログラムや環境教育センターなど多様なイニシアティブが活動しています。



オフィシャルプロジェクトの旗とスタンプ

認定基準

オフィシャルプロジェクト認定の是非は、国連の10年推進国内委員会の審査員が判定します。プロジェクトの認定基準は以下の通りです。

- 持続可能性に関連する環境的、経済的、社会的側面を取り上げていること。
- 国連の10年が掲げる目標を模範的に実践していること。
- 国連の10年に関わる他のイニシアティブとネットワークを構築していること。

認定プロジェクトは、2年間にわたり国連の10年ロゴマークを使用することができます。

グリーン・キャンパス

チュービンゲン大学の学生イニシアティブ「グリーンング・ユニバーシティ」は、研究や大学の運営において、持続可能な開発のビジョンを実現することを目指して活動しています。例えば、学際的なセミナープログラム「Oecologicum」を開講する他、環境マネジメントシステムの導入により、水、紙、エネルギーの効率的な使用を促進しています。



持続可能な暮らしを学ぶ

バイエルン鳥類保護団体が運営する幼稚園の園児たちは、幼い頃から持続可能な暮らしを体験します。その教育プロジェクトはバラエティ豊か。自然の中で、技術の発明につながるヒントを探したり、抽象的なテーマであるエネルギーについては、手作りの水車を使ったりしながらわかりやすく学習します。その他にも、遊びを通して、人間が自然から受ける恩恵について学んでいます。

朝ご飯と温暖化

ベルリンにあるNPO「KATE」では、小学生たちが食物と温暖化の関連性について学習しています。一緒にランチを食べた後、卵や、チーズ、トマトは「温暖化への影響が少ない」食材か、「温暖化への影響が大きい」食材かを判定。温室効果ガスである二酸化炭素を排出するのは暖房や自動車だけではなくありません。食物を生産する過程でも多くのエネルギーを消費していることを学びます。

ドイツ環境財団の展示「気候ワークショップ」の様子。ハントスカナーを使うと、商品の値段の代わりに二酸化炭素の量が表示されます。



若者と年配者—ひとつの世界のために—

ベルリンにてNPO「YOOW」により実施されているプロジェクト「若者と年配者—ひとつの世界のために」では、退職した職人が、職業訓練生の指導に一役買っています。また、使い古された機械や工具が修理され、西アフリカのシエラレオナ共和国にある訓練工場で利用されています。その他、YOOWにより修理されたミシンを活用して、シエラレオナ共和国に縫製工場が完成しました。

持続可能なスクールカンパニー

加工、製品化、販売にいたるまで。バート・ゼッキンゲンにあるスクールカンパニー「RGSウール」では、5年生から10年生の生徒が全工程を手がけています。ウールからフェルト製品や背中用まくらなどを作り、学校のバザーや地元のマーケットで販売。これらの活動を通して、持続可能な経済、自然資源の利用や環境保護など、企業経営におけるあらゆるノウハウを学びます。